



リマテックグループの環境への取り組みが業界トップランナーとして環境大臣に認定されました



資源循環で、低炭素社会へ。気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています



REMATEC  
GROUP

# CSR REPORT 2020



REMATEC  
Innovation for the Earth



Innovation for the Earth

リマテックホールディングス株式会社  
代表取締役

田中 靖訓

## 社会システムの変化に対応できる サステナブルプラットフォームの構築

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界各国で非常事態宣言が出されるなど人々の健康が脅かされ、経済は急減速し、人類はこれまで経験したことのない急激な環境変化に直面しています。

リマテックグループにおいても事業活動にさまざまな影響が出ておりますが、社員の健康の確保を軸に、海外出張の禁止、国内出張の自粛、在宅勤務の活用、工場における時差勤務や体温測定などによる健康管理の徹底等に取り組んでいます。特に当グループの主力事業である資源リサイクル事業は、企業の生産活動を支える社会インフラ事業であることから、各工場の操業を確保し続けることが求められています。社員の健康を確保しながら工場操業を続けていくことに苦心しています。

新型コロナウイルス感染症の影響がいつ、どのように収束していくのかはまだまだ見通せない状況ですが、一方でこのコロナ禍を契機に「不確実性のある状況下においても事業活動を継続させ、持続的に社会に貢献できること」の実践が、企業のサステナビリティを考える上で非常に重要であると改めて認識することができました。また、社会全体でも持続可能な社会を目指す機運は一層高まったと感じています。

そこで、当グループでは「2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるためには…」をキーワードに、今年度より3つの重点項目を柱としたグループの持続性を支える「サステナブルプラットフォーム」の構築に取り組み、持続可能な企業であるための経営基盤を確立することを目指しています。

重点項目の第一は「社会システムの変化に対応した“適切なマネジメントシステムの構築”」です。世界が脱炭素社会に向けて大きく動き出している中、日本においても菅首相が「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標」を宣言しました。脱炭素社会構築に向けて今後数十年の間に社会システムや人々のライフスタイルが大きく変化していくものと考えられますが、この変化に対応するためには適切なマネジメントシステムが必要不可欠です。

当グループでも脱炭素社会構築に貢献するため、「まずは足元から」と当グループの事業活動に伴う温室効果ガス削減に取り組むべく目標を設定しています。今年度はその見直しを行ったほか、新たに設定した削減目標が、国際的なイニシアティブである「SBT (Science Based Targets) イニシアティブ」により、科学的根拠に基づいた目標として認定されました。今後は目標達成を目指し、グループ経営管理指標への取り込み、活動計画の立案、モニタリング等を実施していくこととなりますが、これらの活動をグループ全体で遅滞なく進めるため、グループ経営管理システムや意思決定システムの再構築、さらには変化に対応できる人材の採用や育成等にも力を入れ、適切なマネジメントシステムの構築に取り組んでいきたいと考えています。

重点項目の第二は「社会システムの変化に対応できる“技術及び技術力の獲得”」です。今後必要となる社会変化には、エネルギー、モビリティ、デジタル化といった分野をまたいだ横断的なイノベーションによって生み出される新たな社会システムが必要不可欠です。同時に、分野横断的なイノベーションを実用化・普及させるためにアイデア、例えばコストを下げるアイデアや生活の質を上げるアイデアが必要となると考えられます。

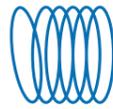
当グループでは事業ドメインである資源リサイクル事業と再生可能エネルギー事業分野において、2050年に必要になると考えられる技術を抽出し、その技術を獲得するための技術開発やアライアンスネットワークの構築に取り組むこととしています。特に近年社会課題になっている海洋プラスチック問題解決のためのプラスチックリサイクル技術や、新たなエネルギー源として注目されている水素エネルギーの廃棄物からの回収、などといったテーマに取り組んでいます。

重点項目の第三は「社会システムの変化に対応した“ビジネスモデルの構築”」です。社会の変化に対応したマネジメントシステムや技術をグループ内で構築・活用し社会に貢献していくためには、ビジネスとして社会実装し、多くの方々に利用していただくことが必要不可欠です。

当グループでは、未利用・低価値な地域資源を原料とした地産地消型資源循環システムへの転換を目指す「ATARAプロジェクト」の推進や、脱炭素経営の実現に向けた「CO<sub>2</sub>見える化ツール」の開発、グループのオリジンである水産業の持続可能な漁業への転換支援などの取り組みを通じて、社会システムの変化に対応したビジネスモデルの構築を目指しています。

コロナ危機は今後数十年の間に起こると考えられる社会システムの変化の一部を、私たちに前倒しで突き付けた側面があるように思います。移動の自由は制限され、リモート〇〇といったこれまでとは異なる手段によるコミュニケーションを余儀なくされた中で社会生活は、脱炭素社会を推進していく上では多くのヒントがありました。

このような未曾有の危機をさまざまな領域における変革のチャンスと捉え、2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるための「サステナブルプラットフォーム」の構築に邁進し、将来にわたってステークホルダーの皆様から信頼される企業グループとなるよう努めてまいります。今後も、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 理念とビジョン

リマテックグループの目指す姿を明確にするため、経営理念・経営ビジョンを定めています。理念・ビジョンを通じて企業の価値を広め、イノベーションを創出し、より良い社会環境づくりに貢献することが、リマテックグループの最大の役割(ミッション)であり、責任であると考えています。コーポレートスローガンを“Innovation for the Earth”と定め、事業活動とCSR活動を一体のものとして推進することを目指しています。

## 理念とビジョン

企業理念をもとに、資源循環社会を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。2010年度より「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出」をリマテックグループのミッションとし、“Innovation for the Earth”をコーポレートスローガンに掲げました。



## 安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

## 環境理念

リマテックグループは、地球環境の保全が人間の存続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

## コンプライアンスポリシー

企業活動において、ステークホルダーとの関係は極めて重要かつ尊重すべきものであり、法令遵守は社会的責務であると認識しております。法令や定款・社内規程はもとより、社会規範を遵守することを実現するためにコンプライアンスポリシーを制定し、役員および従業員の意識向上とコンプライアンス体制の整備を図ってまいります。



## あるべき社会像の実現

- ◎ すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎ 「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎ 自然の摂理にかなった循環社会

## 企業の役割・社会的責任

- ◎ 価値創造
- ◎ 組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎ 社会的課題の解決に貢献する

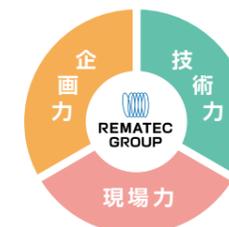
## 「地域の課題解決」を支え、未来を創造する2軸の事業ドメイン

国や地域によって背景も原因も多種多様な環境問題。その課題解決として、リマテックグループでは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つを事業の軸として、地域の将来を見据え、課題に柔軟に取り組んでいます。



## グループならではの「3つのチカラ」を結集し、事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



## 2 理念・歴史

社会システムの変化に対応できる  
サステナブルプラットフォームの構築

トップメッセージ ..... 2  
 理念とビジョン ..... 4  
 リマテックグループの歴史 ..... 6

## 8 特集

特集1 事業活動を通じて貢献できるSDGs  
**CSR×リマテックグループ** ..... 8  
 特集2 “もったいない”ものを“余すことなく使う”ものづくり  
**ATARAプロジェクト** ..... 11

## 12 事業紹介・活動レポート

事業紹介 ..... 12  
 RF事業 ..... 14  
 ネットワーク・物流事業 ..... 16  
 その他事業 ..... 17  
 CSR活動レポート ..... 18  
 環境活動レポート ..... 19  
 安全衛生活動レポート ..... 20  
 新型コロナウイルス感染症拡大防止に  
 関する対策 ..... 21

## 22 DATA・その他

RF事業における環境パフォーマンスデータ ..... 22  
 データ実績 ..... 23  
 環境・安全衛生活動報告データ ..... 24  
 3カ年目標 ..... 25  
 第三者意見 ..... 26  
 第三者意見を受けて/企業情報 ..... 27

## リマテックグループの ロゴマーク



一つひとつのサークルは小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。当グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆さまと持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

# リマテックグループの歴史

1970年代高度経済成長期における海洋汚染を契機に、さまざまな環境問題に正面から向き合い、改善に取り組んできたリマテックグループ。試行錯誤しながらも「変化」へ対応してきた私たちの歩みを、一部ご紹介します。

※PJ：PROJECTの略称  
※RF (Reclaiming Fuel)：セメント焼成用補助燃料製造

## 1970-1999

- 1974 近畿環境興産株式会社設立
- 1992 関西国際空港-PJ  
関西国際空港建設に伴い空港島内で発生する建設廃棄物の処理マネジメント
- 1993 台湾RF-PJ  
中華民国・高雄へ廃棄物処理再生技術(RF燃料製造)を技術移転
- 1995 震災廃棄物処理-PJ  
阪神淡路大震災の震災廃棄物処理管理業務
- 1996 韓国-PJ  
韓国蔚山広域市において、大手石油精製工場のRFプラント建設、技術移転、および運転支援を実施
- 1997 ナホトカ号-PJ

## 2000-2009

- 2000 廃棄物再資源化-PJ  
食中毒事件に伴う廃棄物処理のマネジメント
- 2001 橋本-PJ  
橋本市ダイオキシン汚染現場の不法投棄廃棄物処理マネジメント
- 2002 岩手青森県境-PJ
- 2006 北九州PCB-PJ  
PCB汚染土壌処理施設運転管理業務
- 2007 洲本-PJ  
亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用プロジェクト  
BOFc大船渡-PJ  
セメント会社でのBOFc(Biomass and Oily sludge Fuel)製造設備の設計、建設、運転支援
- 2008 3S(トライエス)-PJ  
家電メーカー堺新工場でのオンサイト廃棄物自家処理・再資源化システム提案

## 2010-2020

- 2010 リマテック株式会社に社名変更
- 2010 岐阜不法投棄原状回復-PJ  
不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃棄物が発熱していることが判明  
燃焼箇所を消火する注水消火の補助工法を提案し採用され原状回復を実施  
亜臨界プラント-PJ  
亜臨界パイロットプラント 建設・運転支援
- 2011 東日本大震災復興-PJ(岩手県)
- 2013 [REMATEC & KSN Thailand] 海外現地法人設立
- 2012 滋賀県大津市-PJ  
ドラム缶約450本におよぶ不法投棄の支障除去業務および再生燃料化・焼却などの処理を実施  
タイ王国  
廃棄物の実態調査・廃棄物組成分析・湿式分級装置を用いたRDF(Refuse Derived Fuel:廃棄物固形燃料)実証試験開始
- 2014 持株会社制に移行「リマテックグループ」へ
- 2014 二次電池材料開発-PJ  
廃棄物由来の低コストな二次電池用原料の製造技術開発事業  
太陽光発電事業開始  
温室効果ガスの排出削減やエネルギーの有効活用を目的とした再生可能エネルギー活用(太陽光発電事業)を開始  
広島災害復興-PJ  
広島県広島市で発生した、豪雨土砂流による災害廃棄物の適正処理を実施
- 2015 Green Conservation Solutions(GCS)を設立
- 2015 バイオガス発電プラント「MFパワー1号」運転開始  
大阪府では初めてとなる固定価格買取制度(FIT)適用のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート
- 2016 熊本地震災害復興-PJ  
熊本県で発生した地震による災害廃棄物98万tの適正処理を実施
- 2017 大分県津久見市豪雨災害-PJ  
大分県津久見市を襲った台風18号の影響で河川が氾濫。発生した大量の汚泥・がれき等(14,300t)の災害廃棄物の適正処理を実施
- 2018 ATARA事業開始
- 2018 広島県市豪雨災害-PJ  
2018年7月豪雨により大量の災害廃棄物が発生。地元企業への災害廃棄物処理の業務支援  
大阪府岸和田市災害復興-PJ  
台風21号の影響による災害廃棄物2,500tの適正処理を実施
- 2019 タイ王国3R-PJ  
「我が国循環産業の戦略的国際展開による海外でのCO<sub>2</sub>削減支援事業」実施(3R財団補助金事業)
- 2020 リマテック株式会社が株式会社レックスRFに社名変更

### 1974 近畿環境興産株式会社設立

海洋汚染の主原因である廃油・廃液を処理するべく「近畿環境興産株式会社(のちのリマテック株式会社)」を設立。



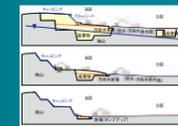
### 1997 ナホトカ号-PJ

ロシア船籍タンカー(ナホトカ号)が破断し、日本海沖に漂流・漂着した事故において、重油の回収・処理・処分を実施。日本海を覆った排出重油等の総回収量は、海水・ゴミ・油泥砂などを含め、約5万9千トンにもおよび、船舶輸送を含め、全国7件10箇所にて対応。原状回復と再資源化等処理・処分を実現。




### 2002 岩手青森県境-PJ

岩手・青森県境不法投棄事業  
原状回復事業における施工管理業務/選別プラント・水処理プラント設計建設  
算出されたマトリックス・シミュレーションにて投棄・埋設された廃棄物の種類を予測し、選別フロー・選別処理基本システムを設計。  
作業におけるリスクおよび、周辺へのリスクの最小化を図りながらの原状回復を約11年かけて終了。



- 多種多様な処理困難物
- ボーリングによる予測 シミュレーション
- 3工期掘削
- 選別破砕
- 再資源化 原状回復

### 2009 NaK-PJ

原子炉の冷却剤利用として研究されていたNaK<sup>®</sup>の廃棄が課題となっており、処理方法を提案。  
安全対策・防災訓練をもとに、模擬作業演習を実施。  
低酸素作業室を自作し、オンサイト設置、NaKの安全な回収を実現。  
※NaK=金属ナトリウムカリウム合金。空気や水分にふれると爆発的に反応・炎上する取扱い困難物質

- 処理提案・リスクアセスメント
- 低酸素作業室設置
- NaKの回収/処理

### 2010 「リマテック株式会社」に社名変更

### 2011 東日本大震災復興-PJ(岩手県)

岩手県大船渡市と陸前高田市において、地元企業と協力し災害廃棄物処理業務に取り組む。  
海水をかぶったがれき(災害廃棄物)を処理するための除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する二次選別プラント、津波堆積物を処理する分級プラントの設計・施工・処理を実施。  
除塩事業による災害廃棄物処理(約93.5万t)、二次選別作業における災害廃棄物処理(大船渡市 約84万t、陸前高田市 約119万t)、分級プラントにおける災害廃棄物処理(陸前高田市 約83万t)。



### 2013 「REMATEC & KSN Thailand」海外現地法人設立

タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をはじめ、アジアでの未利用資源の活用事業開発、およびそれら事業への投資を主な業務とした「REMATEC & KSN Thailand (RKT)」海外現地法人を設立。



### 2014 持株会社制に移行「リマテックグループ」へ

### 2015 「Green Conservation Solutions (GCS)」を設立

サイアムセメントグループとの合弁会社「GCS」が、現地の堆肥化工場から発生する埋立残渣のリサイクル施設を竣工。



### 2018 ATARA事業開始

未利用・低価値な地域資源を原料としたものづくりプロジェクトをスタート。



### 2020 「リマテック株式会社」から「株式会社レックスRF」に社名変更

# 特集 1 CSR×リマテックグループ ～事業活動を通じて貢献できるSDGs～

私たちは、事業活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献し、持続可能な社会の実現に努めてまいります。SDGsの17の目標のうち、リマテックグループの事業活動は、SDGsの土台となる環境「海や森の豊かさや自然」を含めた9つの目標と深い関わりがあります。このうち5つを重点項目とし、各事業が連携した経営を実践し、SDGsを企業戦略として経営統合することで目標達成を目指します。



- 【リマテックグループ5つの重点項目】
- 目標7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
  - 目標9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
  - 目標11. 住み続けられるまちづくりを
  - 目標12. つくる責任つかう責任
  - 目標13. 気候変動に具体的な対策を

## 13 気候変動に具体的な対策を リマテックグループの温室効果ガス削減目標がSBTの認定を取得

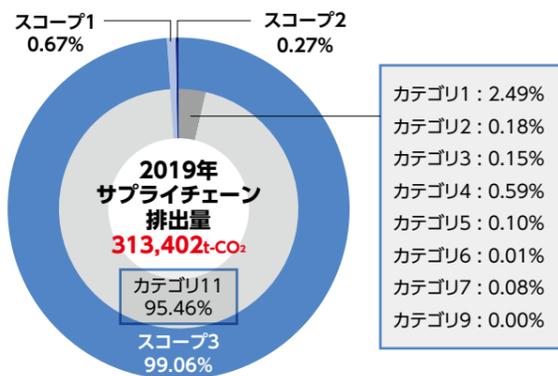
2020年4月、国際的なイニシアティブである「SBT(Science Based Target s)イニシアティブ」は、中小企業でも参加しやすくなるように、中小企業向けに新たなSBT認定の申請ルートを開始しました。この認定ルートは目標設定基準が選択できるため、リマテックグループでは「Well-below2℃(年率2.5%以上削減)」にて目標設定の見直しを行い、2020年9月にSBTの認定を取得しました。持続可能な社会の実現に貢献するために、スコープ1および2の温室効果ガス排出量を2030年に2018年度比で30%削減を目標に、取り組みを推進しています。



### 【当社の削減目標の内容】

- ◆スコープ1およびスコープ2の温室効果ガス排出量を2030年までに2018年度比で30%削減
- ◆スコープ3排出量の把握と削減に取り組むことを約束

■2019年度 スコープにおけるCO<sub>2</sub>排出量の割合



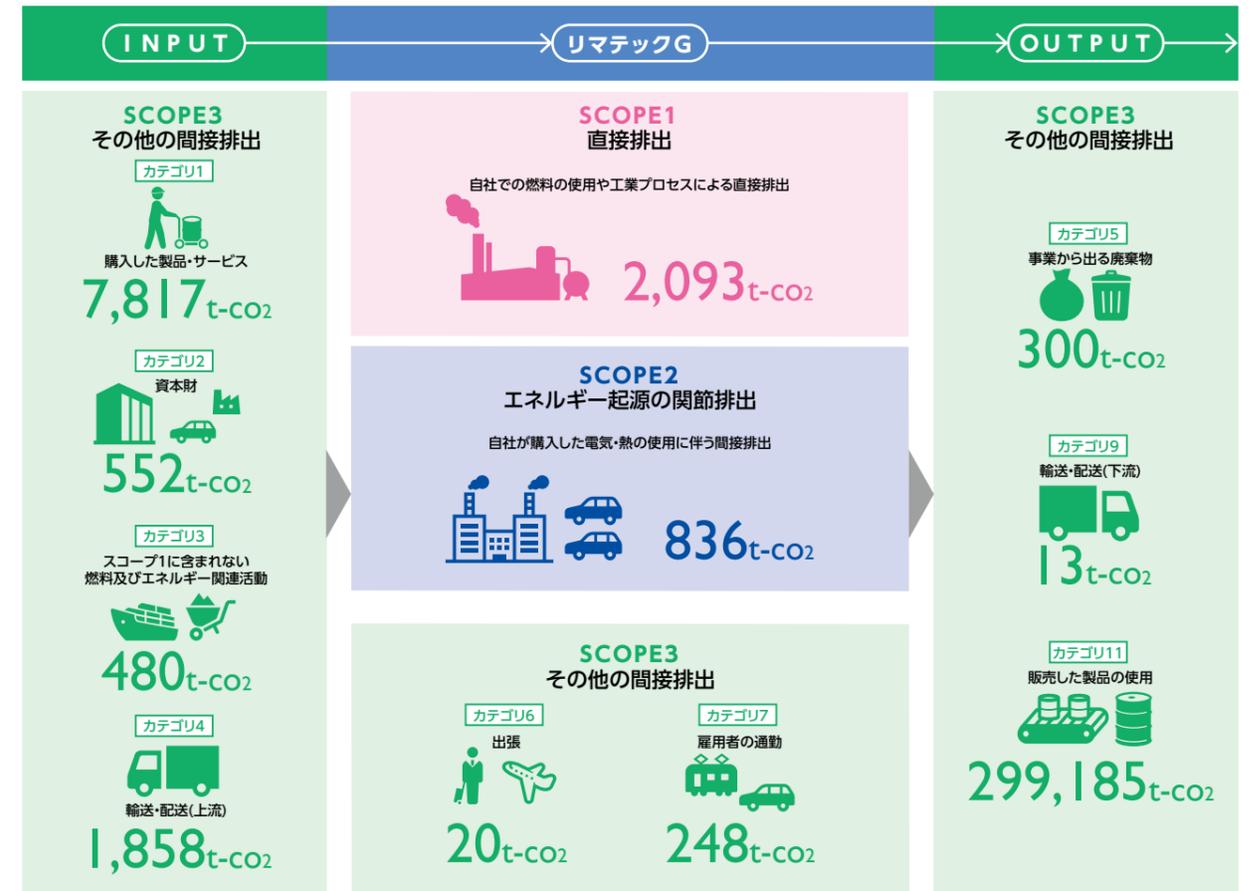
スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)  
スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

■事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1,2)の推移



## 脱炭素社会の実現へ(エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量の把握)

2019年度のリマテックグループのサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量は313,402t-CO<sub>2</sub>。そのうち、スコープ1、2については、前年度から約7.5%減少となる2,929t-CO<sub>2</sub>となりました。また、スコープ3の全体に占める割合は前年度と同様に約99%を占めており、ATARA事業の開始やRF事業やネットワーク・物流事業が好調であったこともあり、前年度より約3.6%増加となる310,473t-CO<sub>2</sub>となりました。



※2019年度より下記データベースを用いて算出しています。  
・ガイドライン: サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出算定に関する基本ガイドライン(Ver.2.3) 2020年3月環境省・経済産業省  
・CO<sub>2</sub>排出原単位データベース: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.0)及び「LCIデータベースIDEAv2.3(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用)」



## 温室効果ガス排出量削減への取り組み

温室効果ガス排出量削減に向けて、日々の省エネ活動に全力で取り組んでいます。これらの取り組みにより、電力使用量を昨年度比1.84%削減することができました。

### 【運用改善】

- ・エアコンのこまめな設定温度の調整
- ・電力使用量管理による「見える化」
- ・低燃費走行による燃料の削減

### 【設備改善】

- ・営業車両の電気自動車導入
- ・デマンドコントロールシステムの設置
- ・低燃費車両の導入



社用車のEV化でCO<sub>2</sub>排出量を削減

敷地内にEV充電装置を設置



## 再生可能エネルギー割合を増やす

本年度発電量は8,673千kWh/年。一般家庭の平均的な使用量(年間約2,974kWh※1)に換算すると約2,916世帯分に相当します。充分量の太陽光発電により、CO<sub>2</sub>削減量※2も3,907t-CO<sub>2</sub>/年となり、脱炭素社会の形成に貢献することができました。近年の異常気象やソーラーパネルの経年劣化などで発電量は大きく影響されましたが、少しでも安定的に発電できるよう、ストリング監視システムのデータ活用や設備点検などにより安定的な発電量を維持し、再生可能エネルギーの普及・拡充の取り組みを通じて、さらに社会に貢献していきます。

※1 電気事業連合会「一世帯あたりの電力消費量の推移」2015年度参照  
※2 太陽光発電のCO<sub>2</sub>削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成30年度)」を参考に算出



2019年10月、中小企業などの再生可能エネルギー導入拡大に向けた新しい枠組みとして、「再エネ100宣言 RE Action」が発足しました。リマテックグループはこれに賛同し、団体への参加を表明しました。2050年までに再エネ100%を目指し、全社を挙げて再生可能エネルギーのさらなる活用の推進を図ります。



## 産業廃棄物の再生燃料(RF)生産の安定

本年度RFの出荷量は前年度比4.4%増となり、リサイクル率も2.7%増となりました。RFは、石炭代替燃料として、石炭等の化石燃料の使用削減につながり、地球温暖化の原因と云われている大気への温室効果ガス排出量の抑制に寄与しています。これからも安定的な生産を継続しながら目標の出荷量を維持し、環境負荷低減に貢献いたします。



## 海洋プラスチックごみの問題解決に向けて

国内で約年間9百万トン程度排出されている廃プラスチック。その大部分はサーマルリサイクルや焼却、埋立処分されています。石油を原料とする廃プラスチックをマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルすることで、より高度な利活用方法として社会実装していくために、リマテックグループも「CLOMA」に参加してさまざまな企業様と意見交換をおこなっています。業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速し、プラスチック廃棄物の排出による海洋汚染の防止を目指します。

※CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)とは、世界規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するために、2019年1月18日設立以来、215社・団体(2019年5月21日時点)が参加し、さまざまな活動を行っています



## 処理困難とされる産業廃棄物の無害化処理

当社では、不活性ガス環境下で処理困難とされるアルカリ金属を無害化して、安全に処分する業務を実施しました。アルカリ金属は空気や水分と容易に反応して火災等を起こす危険性があります。

廃棄物の再資源化など、これまでのノウハウや技術を活かして、産業廃棄物を適切に処理し、再資源化や無害化を図り、ゼロエミッション社会の実現に努めています。



## 特集2



## リサイクルシステムから地産地消型資源循環システムへの転換 ATARAプロジェクト ～“もったいない”ものを“余すことなく使う”ものづくり～



“あたら”とは、立派なものに対して、その価値相等に扱われないことに対する残念だという感情を表し、源氏物語などでも使われていた“もったいない”の古語にあたる言葉です。  
「ATARA」は、未利用・低価値な地域資源を原料とし、もっと当たり前活用される社会になってほしい、という想いを提案するブランドです。

### 商品開発

2018年8月からスタートした取り組みが、2年目を迎えついに商品化に至りました。

地元のお豆腐屋さんの副産物である「おから」を原料に、乾燥おからをクッキーに使用。次におからに含まれていた水分も余すことなく回収し、ドレッシングの原料として活用しました。また、ジュースとして加工した後に残る搾りかすから、香気成分を含む生体水を蒸留回収。果実の香りを活かしたルームスプレーを完成させました。

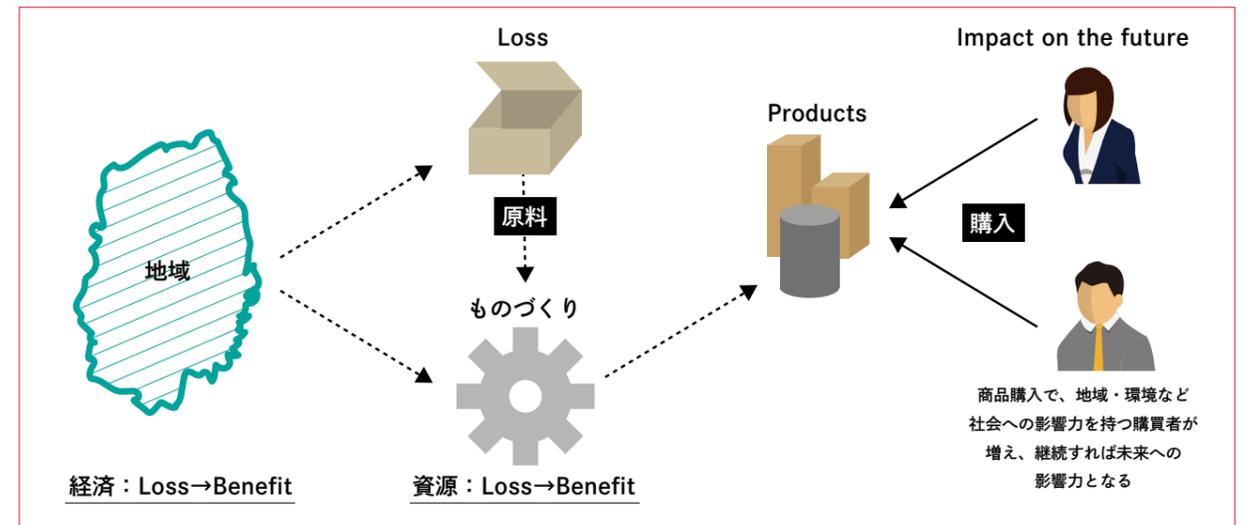


豆腐製造工程からの副産物である「おから」を原料としたクッキーとドレッシングと一番人気のルームスプレー

■ATARAホームページ <http://atara-iwate.com/>  
■ATARA SHOP <https://www.atara.shop/>

### ATARAの取り組み

ATARAの取り組みは、地域におけるLossをBenefitに変換すること、また、ATARAな資源こそが希少価値を持つ社会を目指しています。



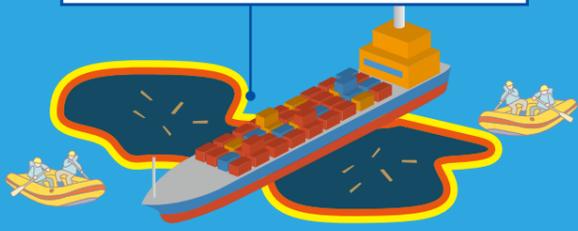
# リマテックグループ 事業紹介

私たちリマテックグループは、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野における社会的課題の解決を主たる事業領域とし、グローバルに事業を展開しています。

## 環境修復事業

### ■海難事故復旧工事

貨物船座礁事故等の海難事故による流出廃棄物や流出油の回収作業から処分・清掃作業までの一連業務



## 環境修復事業

### ■復旧・復興支援事業

自然災害で発生した災害廃棄物を運搬から分析・高精度選別・再資源化までの適正処理



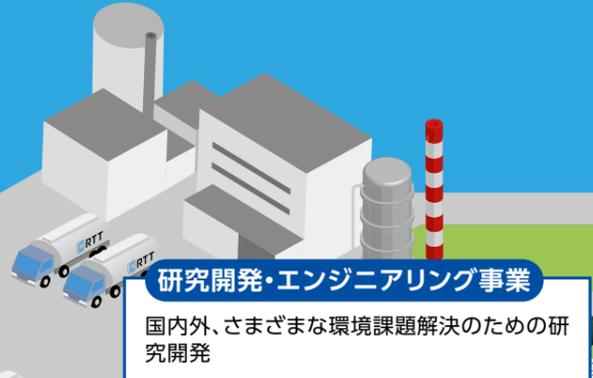
## 収集運搬・ネットワーク事業

収集運搬から処分まで、産業廃棄物のトータルコーディネート



## 研究開発・エンジニアリング事業

国内外、さまざまな環境課題解決のための研究開発



## 太陽光発電事業

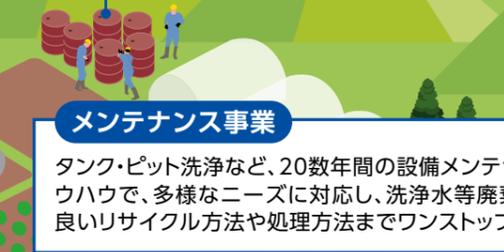
「再生可能エネルギー」の普及促進



## 環境修復事業

### ■不法投棄原状回復

不法投棄の支障除去業務および再生燃料化・焼却などの処理や原状回復計画の立案・施設設計・施工管理



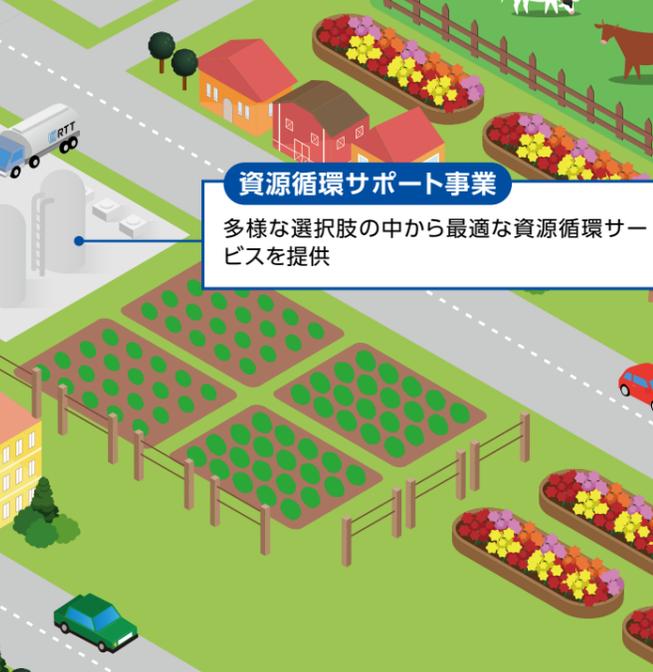
## メンテナンス事業

タンク・ピット洗浄など、20数年間の設備メンテナンスのノウハウで、多様なニーズに対応し、洗浄水等廃棄物のより良いリサイクル方法や処理方法までワンストップで提供



## 資源循環サポート事業

多様な選択肢の中から最適な資源循環サービスを提供



## RF事業

さまざまな産業から排出された産業廃棄物を、独自のリサイクルシステムでセメント焼成用補助燃料 (Reclaiming Fuel) として再資源化



**REMATEC KYUSHU**  
リマテック九州株式会社  
・産業廃棄物処理業  
・再生燃料 (RF) 製造事業  
・産業廃棄物収集運搬業  
・環境修復事業  
・設備メンテナンス事業

**REMATEC TOHOKU**  
リマテック東北株式会社  
・資源循環に関する請負事業  
・資源循環コーディネート業務  
・未利用資源を活用した製品製造業務

**REMATEC R&D**  
リマテックR&D株式会社  
・新規事業・技術の開発  
・コンサルティング業務

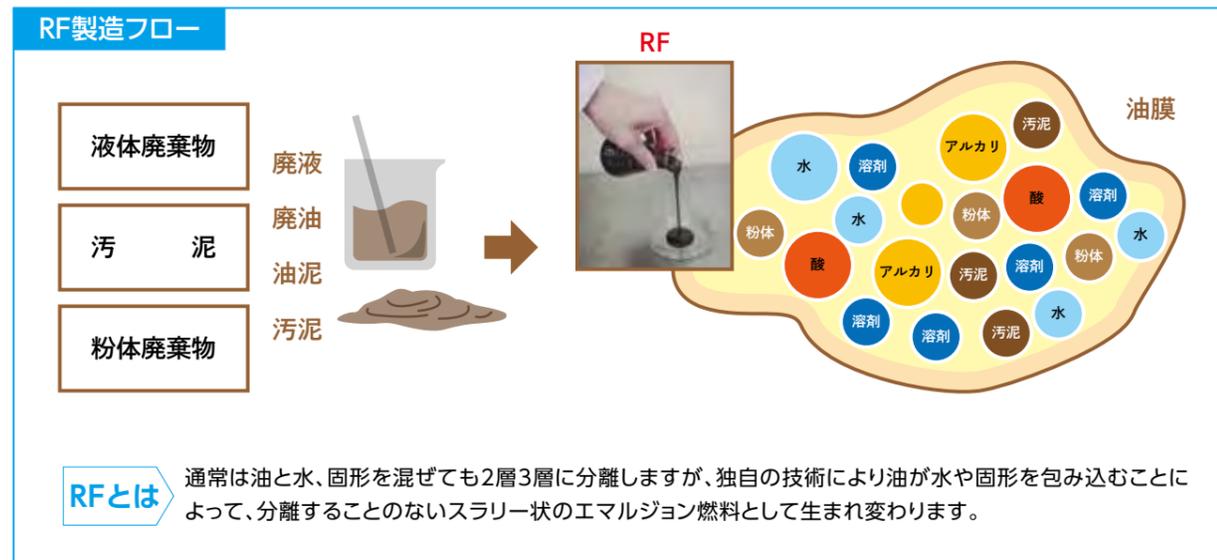
**RTT**  
RTT株式会社  
・一般貨物運送事業  
・産業廃棄物収集運搬業  
・労働者派遣業

# RF事業



## 「廃棄物から燃料へ」

さまざまな産業から排出される多種多様な廃棄物を、高度なミキシング技術と徹底した廃棄物管理により、セメント工場の石炭代替燃料となるRF (Reclaiming Fuel / 廃棄物を利用した再生燃料) として再資源化しています。長年培った経験・技術によって、安全に、安定した品質のRFを生産しています。



## RFの特徴

### 特徴1 独自の技術により、さまざまな廃棄物の再資源化が可能

RFは、油分と水分、固形分を混練した燃料であり、廃油・廃酸・廃アルカリといった液状のものだけでなく、汚泥などの固形状のものまで幅広い廃棄物を原料にすることが可能です。

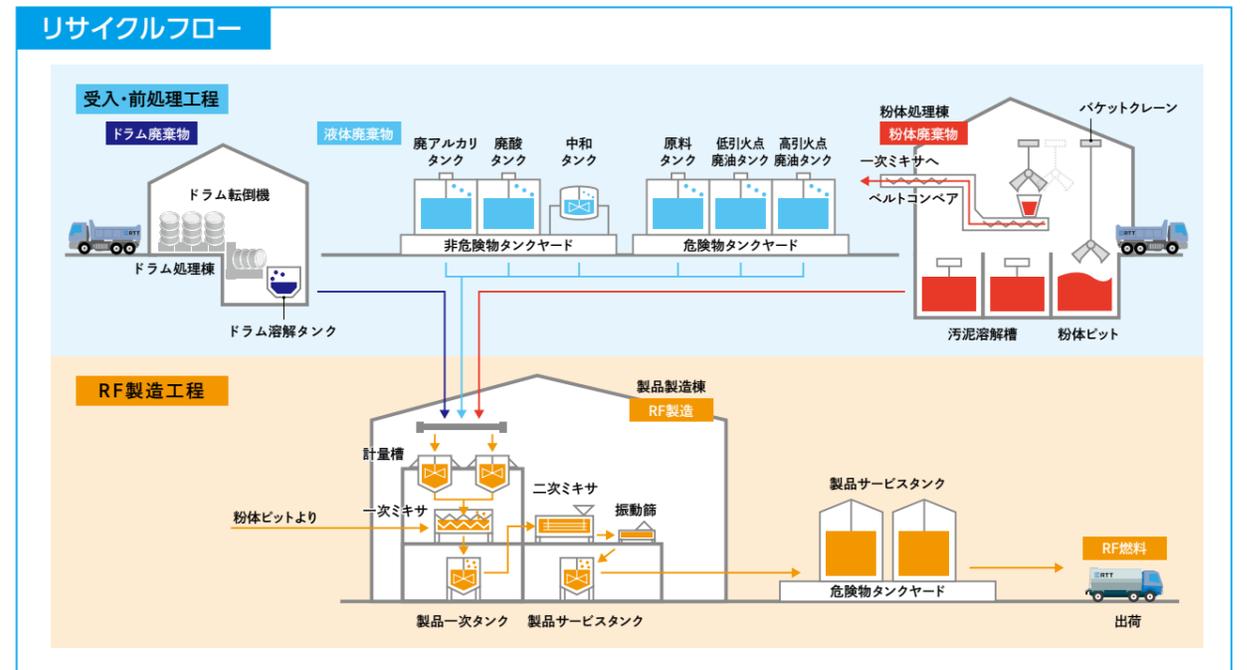
### 特徴2 燃焼ゼロ・排水ゼロ、二次公害の発生なし

RF製造工程では焼却がないため排ガスを発生させず、洗浄等で使用した水も含めて全てを原料とするので、排水も発生しない地球にやさしいリサイクルシステムです。受入廃棄物量のリサイクル率は毎年95%以上と、高リサイクル率を保持しています。

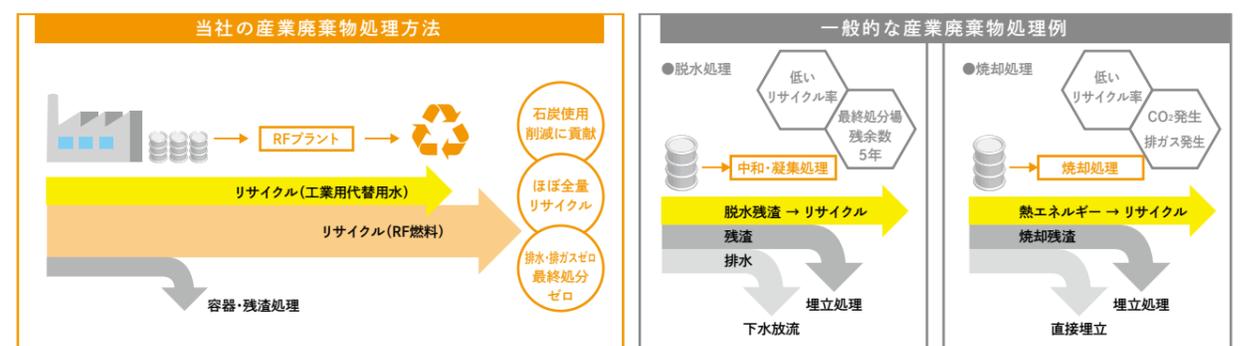
### 特徴3 RFは石炭代替燃料として出荷、最終処分なし

RFは、主にセメント会社に石炭代替燃料として出荷され、石炭燃焼に伴う温室効果ガスの排出を抑制します。また、その燃え殻もセメント原料として利用されるため、最終処分を伴いません。

※1tのRFから生み出される熱エネルギーは、石炭(一般炭)0.7tに相当し、約1.62t-CO<sub>2</sub>温室効果ガスを削減できます。



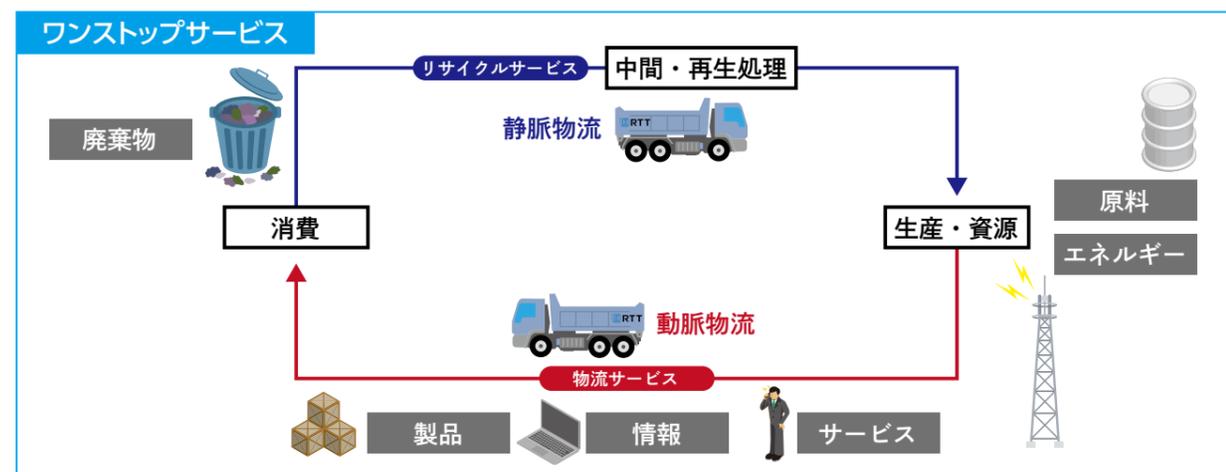
## 産業廃棄物処理の比較



# ネットワーク・物流事業



廃棄物を再資源化する「静脈産業」と、原料・製品・エネルギーを供給する「動脈産業」との間をつなぐ、ネットワーク物流事業。危険物対応車両を中心に、お客様のニーズに合わせたさまざまな車両を取り揃えるほか、静脈・動脈相互の技術やノウハウを一体化し、収集運搬から再資源化、有価物化等を担う「ワンストップサービス」を提供しています。関西・九州地域は自社車両で、その他の地域はパートナー会社と連携することで、日本各地に物流ネットワークを広げ、産業廃棄物だけではなくフッ酸をはじめとする特殊化学物質・危険物・一般貨物の運搬を行うなど、お客様の多種多様なニーズに応えています。パートナー企業と技術のノウハウや情報を共有しながら、静脈・動脈物流の一端を担う物流会社として、廃棄物の効率的な資源循環の推進と発生量の削減、物流の効率化による脱炭素化の促進を目指します。



# 環境修復事業

不法投棄された産業廃棄物による土壌汚染や、海難事故による原油流出、また近年の地球温暖化による大規模な自然災害で発生した大量の災害廃棄物。リマテックグループでは、これらを迅速かつ適正に処理し、一日でも早い生活環境の回復に向け復旧・復興支援事業に取り組んでいます。中でも災害廃棄物の処理工程は、廃棄物運搬から分析、高精度選別、再資源化までの一貫した処理スキームを構築し「暮らしと環境」を守るための事業を行っています。



# R&D事業

当社の技術力と豊富な実績・長年培ったノウハウにより、お客様の抱えるさまざまな課題を解決し、環境分野全般におけるコンサルティング、プラント設計/施工、技術開発、現場管理などのサービスを提供しています。

お客様のコアビジネス以外の業務を代行することで、さらなる競争力強化の支援および資源循環・省エネ提案等、ますます高度・多様化していく環境・エネルギー関連のトータルコーディネーターとして、脱炭素・資源循環型社会への貢献を目指します。



# メンテナンス事業

これまでの各種設備メンテナンス等で培ったノウハウを活かし、お客様の希望に沿ったメンテナンス方法と安全対策を提案・施工しています。また、大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する洗浄水等の廃棄物について、その時々々の条件に応じたより良いリサイクル方法や処理方法を提案する一元管理サービスも行っています。



- 事業実績
- ケミカルタンク清掃
  - 超高压洗浄工事
  - アスベスト除去工事
  - 化学プラントの触媒抜取・充填工事
  - 原油・粗軽油・タール・重油タンク清掃
  - 海上災害復旧工事・廃棄物コンサル業
  - 配管ピグ洗浄工事
  - 超微粉体物の抜取り工事

# 太陽光発電事業

脱炭素社会の実現および、再生可能エネルギー100%を目指し、国内4か所(熊本県・鹿児島県2か所・岡山県)に大規模な太陽光発電パネルを設置。

ストリング監視システムによる合理的な発電と徹底的なメンテナンス・コスト管理のもと、電力供給を行っています。この太陽光発電により、火力発電所から排出される温室効果ガスと化石燃料使用量の削減につながります。

自然環境にやさしい「再生可能エネルギー」の普及促進に努め、企業の社会的責任としての環境負荷低減などを通じて社会に貢献します。



# CSR活動レポート

リマテックグループは、国内外のさまざまな地域に各拠点を置き、それぞれの事業所が地域に根ざした活動を展開しています。これからも幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、より良い信頼関係を構築し、各拠点から共生の輪が広がっていくよう、グループの総力をあげて取り組んでいきます。

## SDGsへの貢献に向けた国内外での活動

国内外の講演会や自治体の研修などにおいて、環境問題や社会的課題に対する自社の取り組みを発表しました。自社の取り組み事例を発表することにより、少しでもSDGsへの関心や目標達成を目指す企業の参考になればと考えております。今後も、SDGsを起点とした新しい取り組みが展開できるように、広範囲なステークホルダーとのパートナーシップを実現していきます。



タイ王国での講演会の様子

## うすき竹宵ボランティアに参加

大分県臼杵市で開催された「第23回 うすき竹宵祭り」のボランティアに、リマテック九州社の社員13名が参加しました。うすき竹宵は、真名長者伝説(般若姫伝説)を、竹ぼんぼりを使った町並みのライトアップと結びつけた催しで、当日は県内外から多くの方が訪れます。そのような地元の町おこしに少しでも貢献したく、一緒に参加したボランティアの方々とは日が沈みかけた夕方、下町の歩道沿いに竹灯籠を並べ、火を灯すお手伝いをしました。お祭りでは、模擬店も多く出店され、多くの方で賑わう中、秋夜の城下町に幻想的な風景が広がっていました。



竹灯籠を並べている様子



ライトアップされた竹灯籠



参加者全員での記念撮影

## 国道花壇

リマテック九州社の社員19名で、臼杵市が管理している国道502号線沿いの花壇の花植えを行いました。例年であれば、臼杵市野津町都松地区いきいき部会の皆様と一緒に花植えを行うところですが、今回はコロナ禍で当社だけでの花植えとなり、黄色・オレンジ・赤のマリーゴールド約600株を植栽しました。次回の花植えは、安心して参加できる環境に変わり、また、一緒に花植えできるようにすることを願っております。



花植えの様子



植栽後



植栽後の記念撮影

## 12年目の共生の森の草刈り

リマテック九州社の社員28名で臼杵市が管理する「共生の森」の草刈りを行いました。この森を管理して以来、今年で12年目となります。当日は、気温の上がる前の早朝から作業を始め、眠たげな表情をしていた若手社員も、途中から顔に汗を浮かべ、生い茂った雑草刈りや樹木の剪定を行いました。作業開始から1時間後、夏に伸び切った草木は全て刈られ、すっきりとした森になりました。次回は、少し涼しい秋を計画しています。



草刈作業の様子



草刈後の記念撮影

# 環境活動レポート

リマテックグループは、安全第一・快適な職場環境を基本理念とし、従業員が安全・安心・快適に働ける職場環境の形成から無事故・無災害の達成を目指しています。同時に、環境との調和を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献し、環境負荷「0」の実現に向け、各拠点で日々、事業活動を行っています。

## 油漏洩処置訓練

工場のすぐ側を流れる河川での重機故障による油類流出を想定。社員全員が緊急時に即時対応できるよう、関係各所への通報連絡手順から土嚢設置や油吸着マットを使用した拡散防止の訓練を行いました。今までの訓練の積み重ねにより、通報から処置までの流れをスムーズに行うことができました。

今後も重機からの油類流出防止のため、日々の重機始業前点検や月次・年次点検、油漏洩処置道具点検を継続し実施していきます。



漏洩訓練の様子

## 地域清掃の参加

岩手県大船渡市では、毎年10月に「市内一斉クリーン作戦」を実施するなど、快適で住みよいまちづくりに向けた環境関連事業を積極的に推進しています。当社でも年2回の地域美化活動に参加。工場内やマイエリアでも毎月4S活動を実施しております。

10月には社員11名が工場近くの県道9号線沿いのゴミ拾いを実施。環境月間である6月には同じく県道沿いのゴミ拾いのほか、工場内の草刈り作業を行いました。



県道沿いのゴミ拾い

## ECO-FIRST エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

リマテックグループは2008年11月に環境保全への取り組みを約束し、業界初、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されました。2019年6月には2030年度に向けた中期目標および2050年度に向けた長期目標に基づいて「エコ・ファーストの約束」更新を行い、「エコ・ファースト企業」に再認定されました。従来から大きく変更した点は、事業を通じて持続可能な脱炭素社会への貢献を目指し具体化したことです。再生可能エネルギー事業を、今後さらに強化・拡大しながら、環境先進企業としての取り組みを進めてまいります。

- 約束1 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します
- 約束2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します
- 約束3 持続可能な脱炭素社会への貢献を目指します
- 約束4 社員への環境教育・啓発活動を積極的に実施します



## 2019年度エコ・ファーストの実績

約束内容	項目	目標	2019年度実績
1 循環型社会形成の推進	産業廃棄物のリサイクル率	97%を維持	<b>98.8%</b>
	再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究	—	廃棄物再資源化に関する研究開発活動の実施
2 地球温暖化防止の推進	再生燃料(RF燃料)出荷量	2024年度まで 現状より5%アップ	<b>102,382t</b>
	CO <sub>2</sub> 排出量削減への取り組み	2030年20%削減、 2050年49%削減(2017年度比)	<b>スコープ1：2,093t-CO<sub>2</sub> スコープ2：836t-CO<sub>2</sub></b>
3 持続可能な脱炭素社会への貢献	太陽光発電施設の効率的な発電量の維持	—	<b>発電量 8,673kWh</b> (4拠点合算値)
4 環境教育の実施	独自の環境教育の実施	—	当社独自の社内環境教育を実施

※「エコ・ファースト制度」企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束し、その企業が、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業(業界における環境先進企業)であることを、環境大臣が認定する制度。認定を受けた企業は、エコ・ファーストマークを使用することができる。エコ・ファースト制度について(環境省ホームページ) <http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html>

## リメンバー7.28

リマテック九州社は1997年7月、2013年12月に火災事故を起こし、近隣の皆様をはじめ多くの方に大変なご迷惑をおかけしました。「過去の事故を絶対に忘れない。二度と起こさない」ことを誓い、毎年「リメンバー7.28」を開催しています。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リマテックグループ各社の参加を取りやめ、リマテック九州社のみで開催しました。世代も変わりつつあり、当時の事故を経験した社員も少なくなりましたが、体験談を社員2名ずつ話してもらいました。経験した方にしか分からない当時の様子を聞き、事故の恐ろしさが伝わってきました。改めて事故の凄惨さを再認識し二度と起こしてはならないと、全員で固く誓いました。この想いを次世代にもしっかり引き継ぎ、全てのステークホルダーの皆様に安心・信頼される企業となるよう、日々精進していきます。



研修会の様子

## 太平洋セメント株式会社全工場QCサークル発表大会

北海道の太平洋セメント株式会社上磯工場主催で開催された「太平洋セメント株式会社全工場QCサークル発表大会」に、大分工場の代表としてリマテック九州社のドライバーサークルが参加し、優秀賞をいただきました。



発表の様子

「時間外労働の短縮～走り方改革～」をテーマに、運輸部門の課題であった時間外労働勤務の改善に向けた取り組みについて発表しました。近年の人材不足等の背景から、運転手の早出・残業・休日出勤が積み重なり、長時間労働が常態化していましたが、昨今の働き方改革を契機に改善に取り組み、出発時間の調整や一般道と高速道路を併用する対策などを実施。運行の質を落とすことなく、社内規定の80時間以内に収めることに成功しました。また、この活動をすることで、年間約520万円の経費削減にもつなげることができました。現在も活動成果を維持でき、今後も従業員の健康とやりがいのある職場環境を目指し取り組みます。

## 無災害記録の表彰

この度、太平洋セメント株式会社大分工場様より「三十一年無災害表彰」、太平洋セメント株式会社大船渡工場様より「6年間完全無災害」の優秀賞をいただきました。これはひとえに、太平洋セメント様ならびに安全衛生協力会の皆様のご支援およびご指導によるものと感謝申し上げます。これからも社員一人ひとりが安全第一を合言葉に無災害記録の更新を目指します。



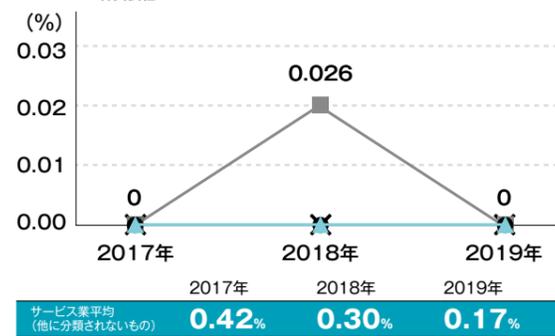
三十一年無災害表彰



6年間完全無災害

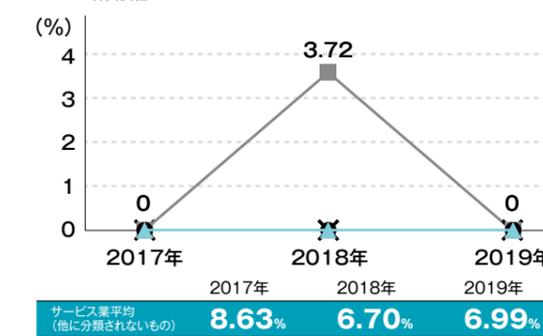
## 強度率

対象/リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社



## 度数率

対象/リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社



■リマテック九州 ▲リマテック東北 ●リマテックR&D ×RTT ※製造従事者 集計期間/各年1~12月

出典:厚生労働省の労働災害動向調査より

※強度率/延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表す。 ※度数率/延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表す。

## 添乗指導の実施

2020年6月施行の妨害運転(あおり運転)に対する道路交通法の改正等により、RTT社では安全意識の高揚・運転知識・技能向上を目的とした安全教育を実施しています。運転者の基本的操作、走行・作業時の安全確認、運転時の危険予知はできているかなど、管理者が実際に添乗指導・教育し、本人は気付いていない癖や長所なども伝えていきます。今後も日々の安全運転・安全作業ができるよう継続して取り組みます。



管理者による教育の様子

## 健康チャレンジ事業への取り組み

大分県では「健康経営」の理念(従業員の健康支援が健康面においても大きな成果が期待できる経営方針のこと)を推進し、企業の健康づくりを支援しています。リマテック九州社は、その活動の一つである大分県中部保健所が主催する「健康チャレンジ事業」に取り組んでおり、2020年2月、この活動に対し表彰状をいただきました。2019年9月から職場の安全衛生活動を熱心に行っていたことに加え、この事業に多くの社員が参加し減量に成功したり、この取り組みを機に運動を始めたなど、健康増進の結果を出している点が評価され、受賞に至りました。健康の増進は日々の積み重ねであるので、今後も気を緩めことなく維持・継続し、生涯現役で働ける職場づくりを目指します。



健康チャレンジ事業参加者

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対策

国内外に感染が拡大している新型コロナウイルス。  
リマテックグループでは一人ひとりの健康確保を第一に考え、感染リスクの低減に努めています。

### ▶▶グループ各社における感染予防の取り組み「新型コロナウイルス対策に関する基本方針」◀◀

#### 対策1

●自宅で体温を測定し、出勤時上長および担当者へ報告し測定結果を記録しています。

#### 対策2

- うがい・手洗い(手指消毒)の徹底と会議等のマスク着用、室内の換気対策、各施設および車両に消毒液等を設置しています。
- 県内外から搬入される産業廃棄物の来客受付窓口に、飛沫感染防止用のシールドを設置。
- 非常事態発生時に、従業員や周辺地域の方々にも配布できる量の不織布マスクを確保。
- 事務所、詰所(休憩室・更衣室)に換気扇を設置。
- 手洗い場の共有タオルを撤去しペーパータオルを設置。



来客受付窓口の様子



来客用玄関入口に設置した手指消毒液

#### 対策3

●コロナウイルス感染拡大に伴い、リマテックR&DとRTTではリモートワークを導入しました。打ち合わせはWeb会議を基本としたことにより、通勤時間や会議時間の短縮による効率化を図ることができ、さらにワークライフバランスの改善にもつながり、現在ではリモートワークが定着してきています。一方で、リモートワークに関するさまざまな課題も見えてきており、引き続き感染リスク低減に向けて勤務形態の見直しや環境整備等を図ります。

- 【利用ツール】
- Web勤怠管理システム
  - Web会議システム「Zoom」
  - ネットワークセキュリティVPN
  - 他

# RF事業における環境パフォーマンスデータ

対象/株式会社レックスRF、リマテック九州株式会社、RTT株式会社 集計期間/2019年4月~2020年3月

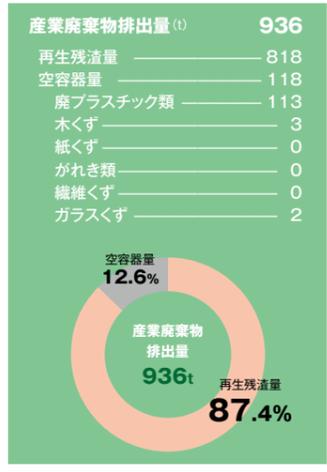
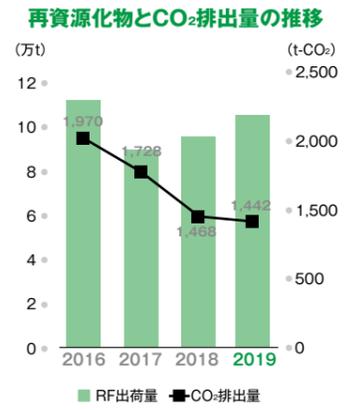
## INPUT RF PRODUCTION OUTPUT

※省エネ法適用外

資源	
ガソリン(KL)	24
プロパン(m)	172
軽油(KL)	70
A重油(KL)	68
灯油(KL)	0
電力(kWh)	2,341,954
工業用水(m)	8,964
アセチレン(t)	0

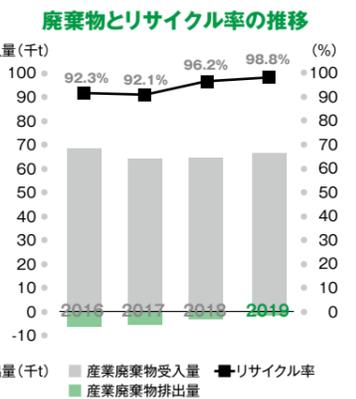
レックスRF		リマテック九州	
ガソリン(KL)	4	20	
プロパン(m)	104	68	
軽油(KL)	35	35	
A重油(KL)	0	68	
灯油(KL)	0	0	
電力(kWh)	864,234	1,477,720	
工業用水(m)	8,964	0	
アセチレン(t)	0	0	



### 有価金属くず

1,010 (t)

内訳		レックスRF	リマテック九州
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		475	967
再資源化物出荷量 (t)		45,888	56,494
RF出荷量		45,888	56,494
低級燃料出荷量		0	0
再生硝酸出荷量		0	0
産業廃棄物排出量 (t)		647	289
再生残渣量		613	205
空容器量		34	84
廃プラスチック類		31	82
金属くず		0	0
木くず		3	0
紙くず		0	0
がれき類		0	0
繊維くず		0	0
ガラスくず		0	2
有価金属くず (t)		610	400



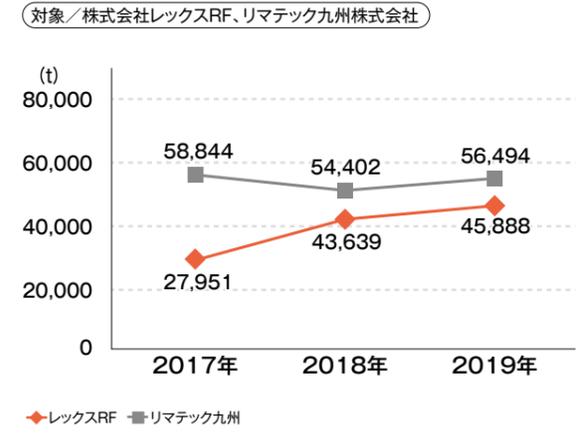
### 収集運搬業務

軽油 (KL)	526.3
ガソリン (KL)	3.2

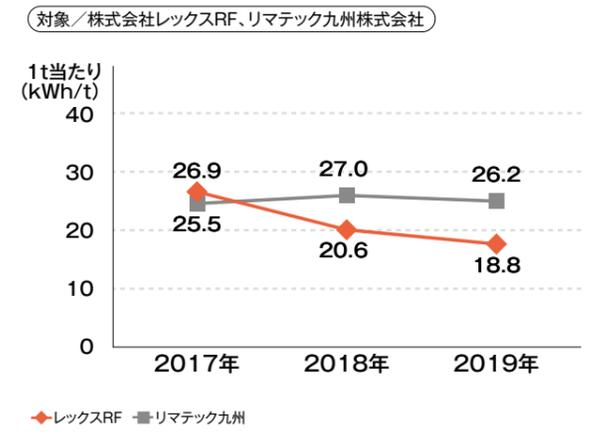
RTT大阪支社		RTT九州支社		リマテック九州	
軽油使用量 (KL)	214.2	137.9	174.2		
ガソリン使用量 (KL)	1.9	1.3	0		

# 2017-2019年度 リマテックグループデータ実績

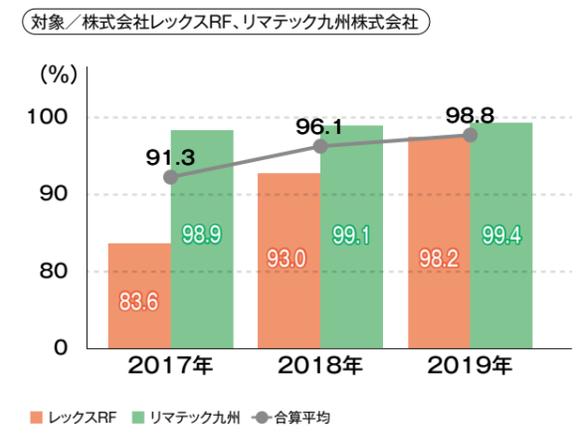
## RF出荷量



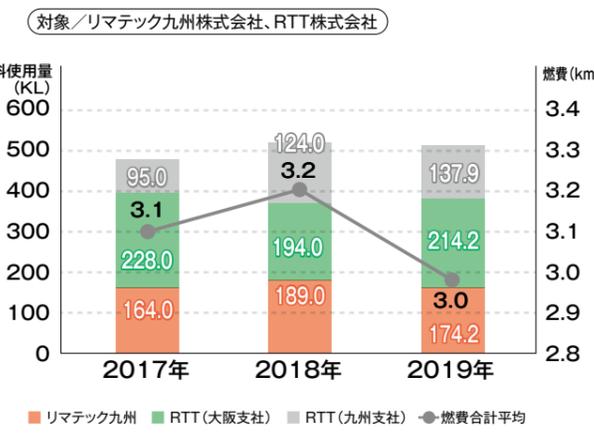
## RF電力消費量



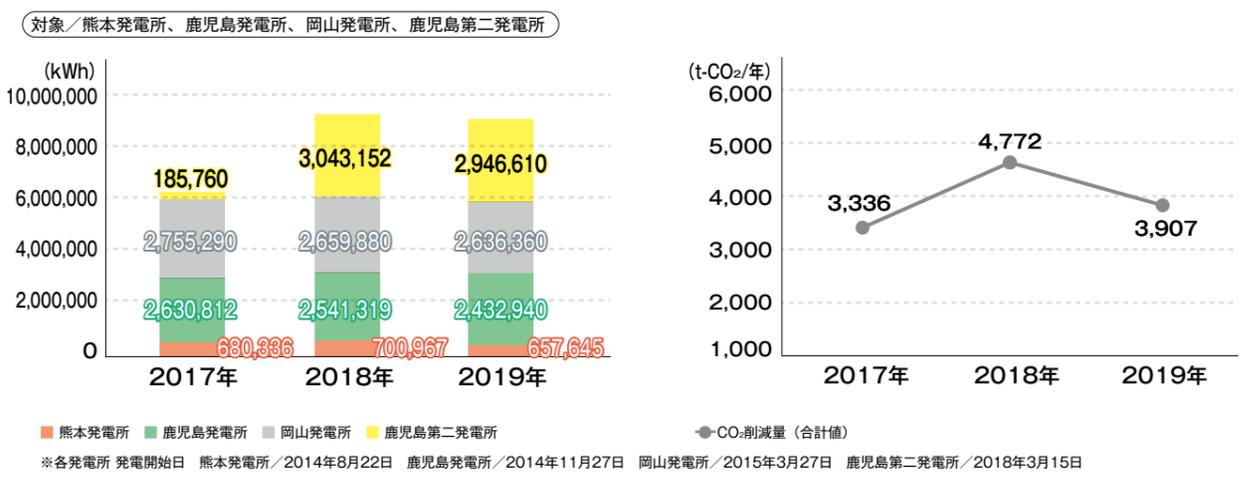
## リサイクル率



## 燃料使用量と燃費



## 太陽光発電量&CO<sub>2</sub>削減量



# 環境・安全衛生活動報告データ (重点取り組みを一部抜粋)

## リマテック九州

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
	共存共栄	騒音・臭気等のクレーム：0件	■定期的な環境/ハトールによるチェック ■夜間作業時の相互注意 ■地域との定期協議会の開催	■定期的な環境/ハトールによるチェック ■夜間作業時の相互注意 ■地域との定期協議会の開催	騒音・臭気等のクレーム：0件	○
電力削減	RF燃料1tあたりの電力消費量の削減：28.0kWh/t	■攪拌機等の設備の間欠運転 ■ライトのON-OFFなど小まめな電力削減 ■事務所外灯の点灯時間の設定調整	■攪拌機等の設備の間欠運転 ■ライトのON-OFFなど小まめな電力削減 ■事務所外灯の点灯時間の設定調整	26.2kWh/t	○	
水質・土壌汚染防止	雨水処理設備からの放流基準オーバー：0件 (pH:5.8以上~8.6以下 透視度:500mm以上)	■雨水処理設備の日常的な管理 ■放流水(雨水)の日々の監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査	■雨水処理設備の日常的な管理 ■放流水(雨水)の日々の監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査	雨水処理設備からの放流基準オーバー 0件	○	
	漏洩事故：0件	■日々の場内点検 ■台風・豪雨時の養生徹底 ■収集運搬時の積載および運搬途中の確認 ■定期的な車両整備	■日々の場内点検 ■台風・豪雨時の養生徹底 ■収集運搬時の積載および運搬途中の確認 ■定期的な車両整備	漏洩事故：0件	○	
再資源化による天然資源の枯渇抑制	RF安定生産達成：55,000t/年	■処理計画に基づく計画的な生産 ■定期的な現場/ハトール ■安全教育 ■処理設備の定期的なメンテナンス	■処理計画に基づく計画的な生産 ■定期的な現場/ハトール ■安全教育 ■処理設備の定期的なメンテナンス	56,494t	○	
安全衛生活動		項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■社長ハトールを強化し、作業標準書に基づいた動作チェックを実施 ■客先構内作業時に管理者層/ハトールを実施 ■リスク排除に向けた設備改善 ■「夏期無事故無災害92日運動」を展開	■社長ハトールを強化し、作業標準書に基づいた動作チェックを実施 ■客先構内作業時に管理者層/ハトールを実施 ■リスク排除に向けた設備改善 ■「夏期無事故無災害92日運動」を展開	事故・災害：0件	○
	衛生	健康個人目標の達成：90%以上	■産業医・保健師による面談および指導 ■ストレスチェックの実施 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加	■産業医・保健師による面談および指導 ■ストレスチェックの実施 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加	健康個人目標：90.4%	○
	防災	異常反応時の防災訓練：1回/年	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■安否確認メール配信システムの運用	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■安否確認メール配信システムの運用	1回/年 実施	○
	交通	交通事故：0件	■計画に基づいたドライバーチェックの実施 ■全国・大分県交通安全運動に参加(期間中、街頭指導0回実施) ■豊の国セーフティチャレンジ2019に参加	■計画に基づいたドライバーチェックの実施 ■全国・大分県交通安全運動に参加(期間中、街頭指導0回実施) ■豊の国セーフティチャレンジ2019に参加	交通事故：1件	×

## RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
	地球温暖化の防止(燃料使用量の削減)	燃料使用量の削減 目標：燃費 3.60km/L(大阪支社) 燃費 2.64km/L(九州支社)	添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させ、排除する(運転経験の少ない新人の採用および車両の老朽化により目標を現状維持とする)	■添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させ、排除する(運転経験の少ない新人の採用および車両の老朽化により目標を現状維持とする)	大阪支社：燃費 3.39km/L 九州支社：燃費 2.34km/L	×
安全衛生活動		項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	交通	人身事故：0件	添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる	添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる	0件	○

## リマテックR&D

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
	電力削減	前年実績より2%削減	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認 前年実績より2%削減(年間平均6,958kWh以下)	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認 前年実績より2%削減(年間平均6,958kWh以下)	79,266kWh(6.96%削減) (年間平均6,606kWh)	○
安全衛生活動		項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■リスクアセスメント活動からポイントの高い部分を優先的に改善を実施 ■毎月経営者ハトールの実施	■リスクアセスメント活動からポイントの高い部分を優先的に改善を実施 ■毎月経営者ハトールの実施	0件	○
	衛生	■ストレスチェック実施：1回/年 ■健康診断受診率：100% ■個人衛生目標達成：80%	■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の実施 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施	■ストレスチェック実施：1回(11月) ■健康診断受診率：100% ■個人衛生目標達成：0%(立案未実施のため)	×	

## リマテック東北

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
	地域環境保全・地域貢献	工場周辺美化活動への参加：2回/年以上	工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い	■工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い	2回/年実施	○
温室効果ガス排出量の削減	■電力削減:前年度比1%削減 ■重機燃料原単位の削減:前年同月比2%削減	■照明や電化製品の節電 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施	■照明や電化製品の節電 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施	電力消費量前年度比:8%削減(968kWh削減) 重機燃料原単位:月平均29%削減	○	
請負業務での環境保全	■重機の油漏洩による河川流出防止:苦情0件 ■発塵防止:苦情0件	■重機始業前点検および油漏洩処置道具点検の実施 ■油漏洩時対応訓練の実施 ■散水車による場内散水作業で発塵防止	■重機始業前点検および油漏洩処置道具点検の実施 ■油漏洩時対応訓練の実施 ■散水車による場内散水作業で発塵防止	苦情0件	○	
セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正前処理 受入拒否:0件	■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減	■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減	受入拒否:0件	○	
安全衛生活動		項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	■不休・休業災害:0件 ■過失による物損事故:0件 ■作業毎のKY完全実施 実施率:100%	■作業毎のKY表チェックと指導 ■相互注意3件/日の実践 ■終業時5分ミーティングの実施とヒヤリハット抽出 ■職場リスクの低減活動実施 ■安全スキルの向上と推進	■不休・休業災害:0件 ■物損事故:0件 ■KY実施:100%	○	
	衛生	■個人健康目標達成率:85%以上 ■定期・特定健康診断受診率:100% ■安全衛生保護具の点検実施率:100%	■個人健康目標の設定、月毎の進捗管理 ■定期・特定健康診断の実施 ■インフルエンザ等流行性疾患の予防対策の励行 ■安全衛生保護具の点検実施 ■安全衛生教育の実施	■個人健康目標達成率:97% ■受診率:100% ■点検実施率:100%	○	
	防災	■廃棄物置場の火災発生:0件	■廃棄物置場の温度管理 ■火災時対応訓練の実施	火災発生:0件	○	

# 3カ年目標《2019-2021年度》(重点取り組みを一部抜粋)

## リマテック九州

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
電力削減	(RF燃料1tあたりの電力消費量)	28.0kWh/t	27.9kWh/t	27.8kWh/t	■低電力消費設備への変更を検討 ■月々の電力消費量の目標値をクリアするため調整と検討を実施 ■日々、攪拌機等の間欠運転等に努め電力を削減		
	RF燃料の安定操業	56,000t/年	57,000t/年	58,000t/年	■タンク内性状(pH・圧力・温度等)を徹底監視し異常反応を抑制 ■科学的解析手法等の導入で廃棄物の搬入安定システムの構築 ■QC活動・社内外教育・現場OJTを通じた、将来を担える人材の育成強化 ■処理困難廃棄物への対応力強化に向けた技術力の強化		
放流水の水質	pH:5.8以上~8.6以下、透視度:500mm以上				■放流水(雨水)の日々の監視 ■雨水処理設備の日常的な管理による機能の維持 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査		
安全衛生活動		項目	目標値	2020年度	2021年度	2022年度	実施項目の計画
	安全	事故・災害	0件				■運営方針「しない・させない」に「ゆるさない」を追い、「安全第一」の徹底 ■三現主義(現場・現物・現実)の実践で職場の不安定状態を根絶 ■6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法)の徹底による安全に強いづくり ■管理者層のハトール強化(客先構内作業のハトール、作業標準書に基づいた動作チェック等) ■法令およびISO規格を実践し、コンプライアンス遵守と事業リスクの徹底排除 ■猛暑期間の7~9月に「夏期無事故無災害92日運動」と「指差呼称運動」の展開
	衛生	健康個人目標の達成	90%以上				■健康個人目標達成状況の進捗 ■ストレスチェック結果の活用 ■産業医・保健師による面談および指導 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加
	防災	火災事故	0件				■混合テストおよびタンク内性状の徹底監視 ■安否確認メール配信システムの運用と一斉訓練 ■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施
	交通	交通事故	0件				■全国交通安全運動期間中の国道沿いにて安全運転の呼び掛け ■定期的なドライバーチェック(運転係全員および交通事故発生当事者対象) ■ドライビングセミナー等の外部講習を受講 ■豊の国セーフティチャレンジ2020に参加

## RTT

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
地球温暖化の防止(燃料使用量の削減)	燃費	3.60km/L(大阪支社)				添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させ、排除する(運転経験の少ない新人の採用および車両の老朽化により目標は現状維持とする)	
		2.64km/L(九州支社)					
安全衛生活動		項目	目標値	2020年度	2021年度	2022年度	実施項目の計画
	交通	人身事故	0件				添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる

## リマテックR&D

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
電力削減	前年度実績維持(±1%以内)				■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討)		
					■使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討)		
安全衛生活動		項目	目標値	2020年度	2021年度	2022年度	実施項目の計画
	安全	事故・災害	0件				■KY活動・定期/ハトールの実施 ■法令・規程の遵守 ■リスクアセスメントの実施およびハザードマップの作成・更新の周知
	衛生	■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診率:100% ■個人衛生目標達成:80%	■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診率:100% ■個人衛生目標達成:80%	■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診率:100% ■個人衛生目標達成:80%	■ストレスチェックおよびフォローの実施 ■定期健康診断の実施 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施		

## リマテック東北

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
地域環境保全・地域貢献	工場周辺美化活動への参加	2回/年以上			■工場周辺道路の美化活動(ゴミ拾い)参加 ■河川堤防沿いの美化活動		
電力削減	前年度比1%削減				■照明や電化製品の節電 ■事務所エアコンの設定温度や運転時間の記録		
請負業務での環境保全	■油漏洩の河川流出防止 委託先からの苦情:0件 ■発塵による苦情:0件 ■重機燃料原単位の削減 前年同月比:2%削減				■重機始業前点検および油漏洩処置道具の点検実施 ■油漏洩時対応訓練の実施 ■散水車での場内散水 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施		
資源循環への貢献(経営課題/顧客ニーズ)	セメント工場での再資源化請負業務の全量適正前処理 受入拒否:0件				■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減		
安全衛生活動		項目	目標値	2020年度	2021年度	2022年度	実施項目の計画
	安全	事故・災害	0件				■KY活動の完全実施 ■ヒヤリハット抽出とリスクアセスメントの実施 ■相互注意の実践 ■安全スキル向上教育の受講と周知会実施
	衛生	個人健康目標達成率	80%以上	■定期・特定健康診断受診率:100%			■個人健康目標の立案、進捗管理 ■定期・特定健康診断の実施、有所見者再検査の受診を推進
	防災	火災発生	0件				■火災訓練の実施 ■廃棄物置場の温度管理

# 第三者意見



認定NPO法人環境文明21代表

藤村 コノエ氏

今年に入ってすぐに始まった新型コロナ感染拡大と、それに伴う多くの社会経済活動の停止。世界中が昨今の気候危機に加えて新たな危機に直面する中、リマテックグループの事業活動においても様々な影響が出ているようで、社員の皆さんの安心・安全(健康)を確保しながら、廃棄物の処理・リサイクルそして循環というエッセンス・ワーカーとしての責任を果たしていくために苦心していることがトップメッセージからも伺えます。

しかし、東日本大震災の際にも見られたように、田中社長は、常に困難な中こそチャンスがあるという前向きな姿勢で、今回も「不確実性のある状況下でも事業活動を継続させ、持続的に社会に貢献」することが企業の持続性を考える上で重要であるとして、サステナブルプラットホーム構築に取り組み、持続可能な企業としての経営基盤のさらなる強化を目指すとしています。いかなる状況下においても、常に明確なターゲットを掲げ、ブレることなく着実に、持続可能な企業経営と社会への貢献の道を歩んでいることが、このコロナ禍においても見られることは、長年リマテックグループの事業活動を見てきた者としてはうれしい限りです。

そして、具体的な事業においても、グループ全体の方針を踏まえたこれまでの取組が少しずつ実を結んでいるようです。例えば、気候変動による世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ、1.5度に抑えるという目標に向け科学的知見と整合した削減目標を設定するSBTの認定を取得したこともその一つです。また特集2にあるATARAプロジェクトは東日本大震災以降、「地域の課題解決」を支え、「リサイクルシステムから地産地消型資源循環システムへの転換」を目指して継続的に進めてきたグループのチャレンジが、一つの具体的な事業になってきた好事例ではないかと思えます。今後こうした事例が各地に生まれ、地元での雇用に繋がれば、事業を通じた本物の社会貢献として素晴らしいものになると思います。

その一方で気になる点もあります。早い時期からCO<sub>2</sub>削減に本格的に取り組むSBTも取得したわけですが、スコープ1における直接排出の削減が困難になってきている点、そして99%を占めるスコープ3の取組をどう進めていくかという点です。今国会で日本政府は「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を打ち出したことから、脱炭素化に向けた取組はさらに拍車がかかるものと思われます。そうした中であって、これまでは廃棄物の削減と石炭代替燃料として温室効果ガス削減に寄与するとしてきた再生燃料RFが、どの程度の廃棄物削減に寄与しているか、また石炭を利用した場合と比べてどの程度のCO<sub>2</sub>削減効果があるのかなど、LCA(Life Cycle Assessment)の視点から明確にしておくことも説明責任の観点から必要になると思います。またスコープ3についての取組もなかなか難しいところですが、リマテックグループだけの課題ではなく、業界全体の課題でもあることから、これまで培ってきた技術力やネットワーク、他社・他業種との連携も視野に、解決に向け先陣を切ってほしいと願っています。

またこれまでのレポートと比較して、レポート対象範囲がやや不明瞭で事業紹介が薄くなっている点、海外活動の紹介も少なくなっているなど、物足りなさを感じる面もあります。これに関しては、おそらく2020年10月の組織編成の変更やコロナ禍で海外事業が止まっていることなどが影響しているのではないかと察しますが、次年度以降はグループ全体の取組が初めて読む人にも明確に伝わるような内容にしてほしいと思います。

前段で書いたように脱炭素化に向けた取組はさらに拍車がかかるものと思われますし、今回のコロナ感染拡大に限らず今後もこうした感染症の発生が短い時間単位で発生することが予測されています。今後大きく変わることが予測される私たちの暮らしや社会経済システムに対応・貢献し、持続的な企業経営を確立するために、田中社長が掲げた3つの重点項目、すなわち、変化に対応した適切なマネジメントシステムの構築、変化に対応できる資源リサイクル事業と再エネ事業分野における技術及び技術力の獲得、変化に対応したビジネスモデルの構築、についても、次年度以降のレポートでは、グループ全体そして各事業における進捗状況が少しでも見られることを期待しています。

# 第三者意見を受けて



リマテック東北株式会社  
代表取締役  
藪 哲之

まず環境文明21をはじめとする皆様のご協力により「CSRレポート2020」を発行できましたことを感謝申し上げます。

社会環境の不確実性が増すなか、リマテックグループが進めておりますSBT認定取得やATARA事業などといった持続可能な企業を目指した取り組みについて、藤村様にご評価いただけたこと、大変励みになります。

一方、事業活動を通じた環境パフォーマンスにつきましては「GHG報告ガイドライン」に基づいて排出量算出を進めていますが、ご指摘の通りスコープ3の取り組みが今後特に重要となります。RF事業ではカテゴリ11(販売した製品の使用)におけるGHG排出量が大きくなりますが、従来の化石燃料を使用したケースとの比較による削減効果など、サプライチェーン全体を通じたパフォーマンス改善について検討を進めたいと考えております。

2021年米国での政権交代などにより、気候変動対応型の産業政策が今後さらに加速すると考えられます。我が国においても、脱炭素・脱プラスチック・循環経済対応等といった社会的要求も一層増していく可能性があります。こうした社会動向に適応するべく、廃プラスチックリサイクルや廃棄物からの水素エネルギー回収事業の検討などにも取り組んでいきたいと考えております。そして、「この世で変わらないのは、変わるということだけだ」ということを肝に銘じ、大きな変化に対応しながら社会に貢献しつつけるグループとなるよう邁進してまいります。

今後の事業においては、動脈産業との連携強化や、政策的インセンティブ・ESG投資の活用などステークホルダーの皆様のご協力が欠かせません。このCSRレポートがステークホルダーの皆様にとって、リマテックグループがパートナーたり得るとご理解いただくための一助となれば幸いです。

## グループ企業



### リマテックホールディングス株式会社

<http://www.rematec.co.jp>

本社 社/〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809



### リマテック九州株式会社

<http://rematec-kyushu.com/>

本社・九州工場/〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906  
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731  
津久見事業所/〒879-2471 大分県津久見市合ノ元町2-1  
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内  
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025



### リマテック東北株式会社

<http://www.rematectohoku.com>

本社 社/〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3  
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527  
花巻ラボ/〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋5-6-3 B-7  
tel.0198-41-3033 fax.019-903-0306



### リマテックR&D株式会社

<http://www.rematec.co.jp/rd/>

本社 社/〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526



### RTT株式会社

<http://www.rtt-rematec.co.jp>

本社 社/〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673  
大阪支社/〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881  
九州支社/〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津648-1  
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821



### 株式会社レックス

<http://re-cs.co.jp>

本社 社/〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1丁目3番9号  
プレミアム長堀ビル6階  
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328



### 株式会社レックスRF(旧社名リマテック株式会社)

<http://www.rematec.co.jp/rematec/>

本社 社/〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-438-6434 fax.072-422-3617

## 編集後記

「CSR報告書 2020」は、リマテックグループのCSR活動についてステークホルダーの皆さまにご報告することを目的に発行しています。この度、発行しました2020年度版CSRレポートでは、グループの事業活動に深い関わりのあるSDGsのうち5つの重点項目についての取り組みを掲載しています。また、事業紹介ページを拡充し、より多く

の皆様にご理解いただけるように編集いたしました。コロナ禍によりさまざまな事業活動や社会活動が制限されるなかでの各社の取り組みとなっております。ご一読いただいた際には、忌憚のないご意見・感想をお聞かせ下さい。本レポートを通じて、当グループのCSR活動内容をお伝えできましたら幸いです。

■報告対象期間/2019年4月1日~2020年3月31日(資料編)

■報告対象組織/リマテックグループ

■報告書発行日/2020年12月1日

■情報開示体系/このレポートは、リマテックグループのCSR活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動をリアルタイムに更新していますのでぜひ、ご覧ください。  
<http://www.rematec.co.jp>

■参考ガイドライン/GRI「サステナビリティレポートガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2018年版」、地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン

### 本報告書に関するお問い合わせ先

リマテック東北株式会社  
〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3  
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527